

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第99回放送の概要 (2015年7月25日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
たろう (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)
かりん (妹尾優香)
あな (岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 今年で創業 92 周年を迎えたエキストラコーヒーでは、神戸のヒストリアン、田辺真人先生のラベルデザインによるカフェオレペースを好評発売中…夏バテ予防に、お役立てください。本日はエキストラ珈琲様 (TEL078-671-0135) のご協力をいただきました。

(CM) 川柳は見た、聞いた方がどのように解釈しようと全く自由です。では川柳を三句、
「ゆうかりに想いを懸けて多士済々」
「酔い醒めて昨夜の修羅場そっと聞き」
「宿帳に夫婦と書いた字が乱れ」

本日は、このような川柳を徒然なるままに作って遊んでいる、川柳同好会様のご協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1): 勝順一さん(54 陽会)、榎本浩二さん(62 陽会)、小林正美さん(64 陽会)、小室こゆみさん(64 陽会)

本日の番組は、6月26日～28日に、沖縄最後の官選知事島田叡さんの事跡を訪ねた沖縄訪問がテーマです。

沖縄県那覇市奥武山(おうのやま)運動公園で、島田叡さんの遺徳を偲ぶ顕彰碑が建立され、6月26日に除幕式が行われると共に、島田叡さんの事跡訪問、両県の交流会、フォーラムなどが行われました。これら一連のプログラムは、兵庫県の「兵庫・沖縄友愛戦後70年記念事業」として実施され、県民団代表として参加したメンバーのうち、兵庫高校武陽会から参加した26名のうち、本日の放送には、勝順一さん、榎本浩二さん、小林正美さん、小室こゆみさん、ゆうかり放送委員会からは、和田幹司、中嶋邦弘、妹尾優香、佃由晃の計8名が参加し報告します。

沖縄訪問の経緯は、今年は島田さん没後70年ということで、武陽会としては昨年よりイベントをしたいと考えていた。沖縄では2年前



から元副知事の嘉数昇明さんを中心に、事跡顕彰事業を行うための顕彰期成会（会長嘉数昇明さん）をつくり活動をしてきた。昨年12月、兵庫県元知事の貝原さんが亡くなられた時の葬儀に嘉数さんが参列され、井戸知事に面会された時に今年6月には沖縄訪問を是非お願いしたいと要請され、井戸知事は兵庫県として訪問すると約束された。その後武陽会にも声がかかり、参加させていただくことになった。武陽会からは武陽会前理事長の和田憲昌さん以下26名が参加した。代表メンバーには100陽会から非常に若い2名も参加した。

島田叡さんを語り継ぐ会はこれまで10年ごとに開催されており、今後は若い世代に語り継いでもらうため、今回の沖縄訪問はいい機会であるので、現役時代から元気よかった坂本弘輝君、杉田修斗君が参加した。このため武陽会参加者の平均年齢は若くなっている。現地ではマスコミの取材が坂本君に集中し、沖縄県と兵庫県の関係を若い目線でどのように感じ取っているかが取材のポイントになった。彼は、自分の目で現場を見て体感した事が非常に良かったという感想を漏らしていた。また彼は除幕式では兵庫高校名物である、生徒会長が生徒会旗を持って行うエールも披露し、兵庫高校の伝統の一端を参加者に感じて頂いた。

初日の6月26日は、島田叡さんの顕彰碑除幕式に参加し、終了後、公園内で翁長知事、井戸知事、上原糸満市長、久本神戸市長も参加した友愛懇親会が開催された。懇親会后、摩文仁の丘の「島守の塔」及び兵庫県の「のじぎくの塔」に献花した。6月26日は島田叡さんの公式命日で、多摩霊園のお墓にも明記されている。



沖縄・兵庫友愛スポーツセンター跡地



島田叡氏顕彰碑



島田叡氏顕彰碑除幕式



兵庫・沖縄友愛グラウンド碑除幕式

顕彰碑の碑文には以下のように記されている。

《建立の詞》

1945年1月、島田叡（あきら）氏は風雲急を告げる沖縄に、大阪府内政部長から第27代縣知事として赴任しました。その頃沖縄は、前年の「十・十空襲」の被災につづき、住民を巻き込んだ国内唯一の地上戦が始まろうとする直前でした。それは死を賭した「決断」の着任でした。

以来、5か月に及ぶ苦難な戦火の沖縄で県政を先導し、献身的にしかも県民の立場で疎開業務や食糧確保につとめ、多くの県民の命を救いました。

最後の官選知事・島田叡は、沖縄戦で覚悟の最後を遂げ、摩文仁の「島守の塔」に荒井退蔵警察部長をはじめとする旧県庁殉職職員（469柱）とともに祀られています。沖縄県民からいまも「沖縄の島守」として慕われている所以です。

享年43歳（兵庫県神戸市須磨区出身）。

また島田叡は、高校、大学野球でフェアプレーに徹した名選手でもありました。野球をこよなく愛し、全てに全力を傾けるそのスポーツ精神は、県政の運営にも通底し、つながっていたと思われます。1964年に、故郷・兵庫県の「島田叡氏事跡顕彰会」から沖縄へ「島田杯」が贈られました。そのことが高校球児に甲子園への夢を育み、大きな励みになりました。

1972年、「本土復帰」の年に兵庫と沖縄両県は友愛提携を結び、兵庫県民からの寄贈「沖縄・兵庫友愛スポーツセンター」をはじめとするさまざまな交流事業を展開してきました。

この島田叡知事のご縁でもたらされた兵庫・沖縄両県のこれまでの交流の歴史と絆は、私たち県民の誇りです。島田叡知事の心を表す「友愛の架け橋」はこれまでも、これからも沖縄県民に引き継がれ、次世代を担う若者たちにとって大きな宝になるものと信じます。

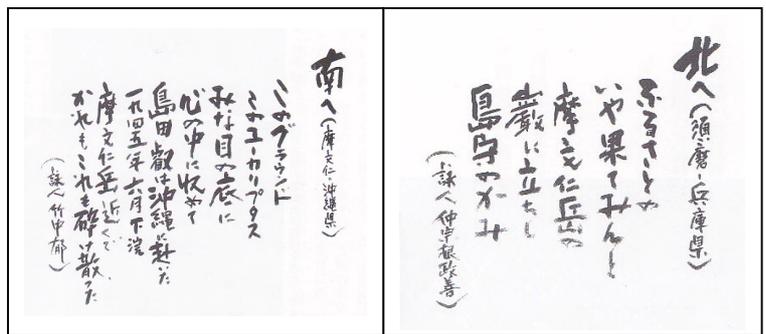
ここ沖縄県野球の聖地・奥武山にこの碑を建立し、県民のための県政を貫き、県民とともに歩み、沖縄の地に眠る島田叡氏の事跡を顕彰する同時に、併せて世界の恒久平和を心から祈念します。

2015年6月吉日
島田叡氏事跡顕彰期成会
会長 嘉数 昇明

・顕彰碑除幕式の会場で、音楽や詩を聞くと思わず涙が出てくるが、兵庫高校には「合掌の碑」があり、竹中郁さんの碑文がある。合唱の碑は沖縄を向いており、沖縄の事跡顕彰碑は兵庫を向いている。そしてそこにも竹中郁さんの詩が刻まれている。沖縄の方の兵庫に対する気遣いを強く感じる式典であった。（榎本）



詩碑



左：竹中郁さん

右：仲宗根政善さん

・今回4回目の沖縄訪問であった。島守の会の島袋愛子さんと知り合うことで、兵庫から来たというだけで熱くやさしく深く接してくれることを3年前に実感し、女性同士ということもあり手紙のやり取りなどを通じて島守の会の活動に感動してきたので、今回の参加者にも島袋愛子さんと親しくなってほしいと思った。（小室）

- ・島田さんの切羽詰まった時の行動は鏡とすべき所があり、夏休みが終わると尼崎の県立高校で島田さんと沖縄について 90 分話をする予定になっており、今回の訪問が多いに役立つと考えている。阪神淡路大震災時の大混乱時の中で、先輩の林五和夫さんと一緒に貝原知事が、君たち神戸二中（兵庫高校）だねと聞かれたが、知事が島田さんに見習って、命をかけて復興に取り組むと後日発言されていたので、その時、我々に声をかけられた意味に気がついた。（中嶋）

島田さんが県庁解散を宣言された轟の壕を、島袋愛子さんに案内していただいた。入口は一人しか通れない小さなものであるが中は広がった。しかし一時住民、県庁職員、軍人などが 1000 人以上避難生活をしてきたため、想像を絶する苛酷な生活を強いられていた場所である。

- ・「沖縄の島守」を書かれた田村洋三さんも今回沖縄を訪問され、轟の壕について現場で解説頂いた。田村さんによれば、住民は道々で子供さんなどの遺体を見ながらやっと轟の壕にたどりつき、食べるものもない状態で壕で過ごした。現地を見た我々もその苦しみを想像することはできず、米軍との戦争であるにも関わらず住民に対する日本軍人の横暴さを思うと心が痛む。（榎本）
- ・壕は横穴と想像していたが入口は非常に狭い地下にあり、島田さんが滞在した時とほぼ同じ時期に壕を見学したが、蒸し暑さと 1000 人を超える人の多さと食べるものがなく、いつ命が亡くなるかわからない状況を考えると、ヒューマニズムを貫いた島田さんの偉大さを感じた。（妹尾）
- ・壕を見て歩くことが大事だと改めて思った。壕に入る前に島袋さんが全員分の手袋とライトを準備されていたこと、周到な準備と心遣いを大変嬉しく思った。（和田）



これより轟の壕



入口は 1 人しか通れない



「島守の会」の島袋愛子さんに案内頂いた



「沖縄の島守」の著者 田村洋一さんの解説



壕の中は広いが1000人以上の住民が生きていける場所ではない

2. ミュージック：島守の塔讃歌「島守のかみ」

歌詞は、
ふるさとの
いやはて見んと
摩文仁（まぶい）山の
巖に立ちし
島守のかみ
ふるさとの
島守のかみ

この曲は、469名の殉職した沖縄県職員の御霊に捧げたもので、「島守の塔」建立後の最初の慰霊祭（1951年6月25日）、で初めて演奏されました。作詞は、当時沖縄群島政府文教部長を努めていた仲宗根政善氏で、ひめゆり学徒の引率教諭をされ、ひめゆりの塔の傍らに立つ歌碑の作者です。作曲の比嘉盛仁氏は、那覇教会の牧師です。



慰霊塔



勝理事長代表献花

3. ゲストコーナ（2）

沖縄滞在中、①兵庫・沖縄友愛懇親会（沖縄県主催）、②城岳同窓会との交流（城岳同窓会主催）、③兵庫・沖縄友愛の集い（兵庫県主催）、などの交流会が開催された。初日の懇親会には両県の知事、糸満市と神戸市の市長他、多くの関係者が出席し、沖縄の素晴らしい文化芸能他を披露頂き、参加者は皆感動した。



琉球舞踊



空手演舞

- ・交流会で隣席が栃木県からの方で、名刺交換すると荒井さんというお名前で（島田勲さんと最後まで行動を共にされた警察部長荒井退蔵さんの関係者）、栃木県でも「沖縄の島守」の本を学校に贈ったり、荒井さんの顕彰事業に取り組みられているというお話をされた。（和田）

本日放送に出席している武陽会メンバー4人は、2年前から島田勲さんの遺骨捜索で沖縄を訪問している。城岳同窓会の方とは、訪問ごとに開催された交流会で親交を深めてきた。

（今回の訪問の意義について）

- ・バスガイドさんが沖縄弁を交えてお話をされるが、言葉が殆どわからなかった。これは過去の沖縄の歴史、特に琉球王朝以降の歴史に関係していると思ったが、これまで沖縄の歴史の勉強をしていないので、深く沖縄を知ることが大事である事を痛感した。国と沖縄県との間の現在の問題も、そのような観点を踏まえて考える必要があると思うが、本土の人々がどこまで理解して対応しているか疑問である。

本日お送りした曲「島守の塔讃歌」について、島袋愛子さんは「1曲の奏でる音色、その歌詞に思いの丈がいく百の文を持っても表現出来ない想い、悲しみを感じさせる曲です。神戸の皆さんと共有できたらと思います。」と言っておられます。そのため、この曲を放送の初めからバックミュージックとして流しました。（佃）

- ・2012年沖縄返還40周年の年に「沖縄の島守」を想う夕べを開催したことをきっかけに、沖縄との交流が深まった。その過程で沖縄について勉強してきた。1964年（昭和39年）当時の姉崎校長が顕彰事業を初めたが、その後島田勲さんを語り継ぐことについて、先輩から後輩にバトンを渡していくことで、理解の輪を広げていきたい。（榎本）



- ・沖縄の方は島田勲さんのことをよく知っているが、兵庫県民が島田勲さんのことを知っているかについては少ないと思われる。沖縄訪問の下見で沖縄に行った時、どのタクシー運転手さんも島田勲さんの事を知っていた。自分の身内が沖縄戦で経験した事を含めて、島田さんについて語ってくれた。兵庫県民はもっと島田さんについて知るべきと思った。顕彰事業は開かれたものであるべきで、武陽会が中心になることは大事だが、外向きに活動を進めて行くことが大事である。64陽会の藤原康延さんプロデュースのTBSテレビドラマ「生きる」の存在は大きく、島田さんのことが国内で知られるようになった。今後はメディアの活用を

考える必要がある。兵庫・沖縄友愛戦後 70 年記念事業が立ち上がる前に、TBS の藤原さんに 70 周年に向けて映画の制作が出来ないか冗談半分に聞いたところ、無理と言われた。

多くの方に島田さんを知ってもらう方策として、島田叡基金を作って映画を作れないか、世界記憶遺産に登録出来ないかなどを考えている。武陽会に専門準備委員会を作って取り組みたい。命のビザを発給した杉浦千敏さんについて 2015 年登録を申請している。日本ユネスコで 1 年に 2 件まで認められれば OK になる。島田さんに関する信憑性のある記録資料がどの程度あるかが決め手になる。栃木県出身の荒井退蔵さんの資料も重要。これは若者に語り継ぐ具体的なテーマになると思う。

兵庫高校生が今年の 2 年生から修学旅行先が沖縄に変わる件について、前石井稔校長が在任時のテーマと考え取組まれたもので、島田さんに関する武陽会の取り組みもあり、協力して実現したものである。事前学習として、TBS 製作のテレビドラマを教材として使い、また書籍化した「10 万人を超える命を救った沖縄県知事・島田叡」を武陽会より生徒全員に配布した。(小林)

- ・城岳同窓会には古い写真がたくさん展示されていたが、兵庫高校には東山魁夷さん、小磯良平さんの展示はあるが島田さんのものはないので今後検討が必要。(中嶋)
- ・国際通りのバーのような店に入るとギター伴奏でアメリカの歌を歌っていた。上手な歌で一緒に歌おうと誘われ、長年の米軍駐留の影響を感じた。沖縄の今を知り、平和や日本のあり方を考えることが大事であると思い、今回の沖縄訪問の重要性を認識した。(和田)
- ・小学校 6 年生の時に「沖縄の空と海」という小学校のコンクールの課題曲及び、当時父親に見せられた映画「沖縄決戦」は強烈に脳裏に残っており、何も知らない自分にはこの二つだけで戦争は嫌だという思いを強くした。30 数年後の今、島田さんをきっかけに沖縄に関係出来た事を運命と感じ、兵庫県だから、島田さんだからだけでなく、小中学校教育で自然な形で沖縄の戦争の歴史を学べないかと思う。(小室)
- ・摩文仁の丘の島守の塔には、兵庫県小野市の旭丘中学校からの折り鶴が届けられていた。兵庫県から沢山来られていると話されていた。TBS のドラマ「生きる」の DVD は、TBS から沖縄教育委員会に 100 本寄贈され、県下の全高校生が視聴できるようになった。また栃木県にも寄贈された。ドラマは TBS の政治記者岩城宏幸さんの 35 年以上にわたる取材がもとになっている。岩城さん、永六輔さんは TBS ラジオの週 1 回の番組で、沖縄、兵庫高校、島田さんの名前を絶えず話題にし、岩城さんは「生きる」を書籍化された。(妹尾)
- ・島田さんのドラマ「生きる」のドキュメンタリー部分の続編が番組として製作されるようです。(小林)

- ・沖縄と兵庫の野球に関する交流は、昭和 39 年に島田杯が沖縄に贈られ、沖縄の秋の新人大会の優勝チームに島田杯が授与されることになり、島田杯を受けた学校が翌年の選抜高校野球に出場出来ることになり、古座高校が第 1 回目の勝者になった。勝さんが入学した年に古座高校が兵庫高校のグラウンドに来て練習を一緒にした。当時の沖縄の高校は弱かったが、その後強くなり、今は全国大会で優勝出来るチームが生まれている。沖縄の高野連も島田杯をもらってから強くなったと言ってくれる。(勝)



昭和 60 年復活島田杯として贈られたもの

- ・今年の夏の高校野球は 100 周年の記念事業として、8 月 6 日の開会式で 1915 年の第 1 回大会に出場した 10 校の代表が復刻ユニホームで行進する。行進には兵庫高校も出場し、胸に「K S M S」(Kobe Second Middle School) の文字入りのユニホームを着用する。春の選抜では沖縄から糸満高校が出場し、兵庫高校と練習試合を行った。(妹尾)

(参考) 兵庫県民代表団の 1 員である中嶋邦弘さんのHP
「戦後 70 年、沖縄の島守島田叡さんを語り継ぐ」
<http://kdskenkyu.saloon.jp/tale59oki2.htm>

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>